

本校は積丹半島最北端の積丹町の神威岬の近くにある小規模の小学校です。校区は人口が約210人で世帯数が約110世帯と小さな町ですが地域や保護者の教育に対する熱い期待と協力に支えられています。全校児童は12名、教職員は7名で構成され、毎日子どもたちは元気いっぱい学校に登校しています。

本校の1日は児童達の朝活動から始まります。朝活動は、児童会を中心として体力向上に取り組み、毎朝8:00になったら児童は体育館に向かいます。火曜日と金曜日に「はなわとび」、月曜日は「一輪車」、水曜日は「マラソン」と体を動かすことが日常的に行われております。全国体力運動能力調査の種目を年2回、体育係中心に全校児童で取り組み、その成果と課題を教職員で詳細に分析し、子どもたちの長所を伸ばし弱点を克服する取り組みに生かしています。さらに、児童会は「いじめ防止」対策として、全校児童が笑顔を絶やさない学校を目指した「笑顔の木」の取り組みや全校児童で昼休み仲良く体育館で鬼ごっこ等をして遊ぶ「余別っ子仲良しタイム」を実施しています。

また、本校では小規模学校の特徴として、異学年集団による活動が多く、「ここはこうすれば良いよ」「一緒にできるように頑張ろう」と高学年が後輩たちに積極的に声をかけあったり、アドバイスをするなど、上級生がリーダーシップを発揮し、下級生を上手にリードして学校行事に取り組んでくれます。その成果は運動会や学芸会で見られ、一輪車やなわとびなどで更に難しい技にも挑戦し、地域の方々や保護者等の大勢の皆様に披露しています。

さらに、本校では地域の基幹産業である漁業を生かして、「総合的学習の時間」で、保護者や地域の方々の協力のもと、積丹町の農林水産課と連携して「さけの放流体験」、「ウニの皮むき体験」、「漁船乗船体験」などの特色ある活動を各学年の発達段階に応じて行い、児童が住む地域への愛着や誇りを高める教育活動を展開しています。

今後、本校では小規模学校の課題で大集団の中で自分で考えたことや思ったことを発表したり表現する力の向上が求められます。現在、そのために同地域にある小規模学校と連携し、合同旅行的行事や集合学習会を複数回実施するとともに、オンラインで授業や昼休み等に学校をつなぎ、互いの学びの成果を確認し合ったり、交流を深めるなど積極的に取り組んでいます。また、小・中学校の接続をスムーズにするための中学校教諭による乗り入れ授業や、オンラインで中学校の生徒会とつなぐ等の機会を積極的に設けています。

これら様々な活動を通して、児童の表情は一人一人が毎日きらきらしており、充実感に満ちて溢れています。今後も「すべては子どもたち」を胸に、子どもを学校の中心において、児童の目の輝きと絶えない笑顔が継続するように、地域や保護者の理解や協力と教職員の力を結集して組織的に教育活動を行ってまいります。



【5・6年 乗船体験】



【全員でがんばった運動会】



【レベルの高い演技ができた学芸会】